



アフガニスタン・バグラーン州での大雨・洪水被害 (写真・AP / アフロ)

2024年 世界の主な自然災害

海外消防情報センター

本資料は、2024年の1年間に世界各地で発生した主要・特徴的な自然災害について、国連機関（UNDRR、OCHA）や通信社等の報道内容をもとに、おおむね災害の態様ごとに整理したものである。インデックス的な参考資料としてご活用いただければ幸いである。

1 地震災害

《日本》

2024年1月1日16時10分（現地時間、以下同じ）、北陸・石川県の能登地方の深さ約15kmでM7.6の大地震（最大震度7）が発生した（気象庁による英称は「The 2024 Noto Peninsula Earthquake」）。

この大地震により、半島部の広域で多数の家屋が倒壊するとともに、大規模火災も発生し、死者228人（直接死）及び行方不明者3人（いずれもすべて石川県内）、1,300人を超える負傷者に加え、その後も300人を超える関連死が発生するなど深刻な大災害となった。新年元日の夕刻に発生したことに加え、能登半島の地勢状況、交通アクセス遮断等により困難な状況下で懸命の救助救援活動が行われ、今後の地震対策に大きな教訓を残すこととなった。

《台湾》

4月2日7時58分、花蓮県東方の沖合（花蓮県政府地点から南南東25.0km）を震源とする

M7.7の大地震が発生し、死者18人、行方不明者2人のほか、1,100人を超える負傷者となった。同国では、1999年の921大地震（集集地震）以降で最も大きな地震である。

《バヌアツ》

12月17日12時47分、南太平洋の島嶼国の首都ポートビラ近郊・西岸沖約8kmを震源とするM7.3の地震が発生し、少なくとも死者は14人、負傷者は265人となった。ポートビラとその周辺地域で建物倒壊、道路・埠頭などの公共施設被害や土砂崩れ等による大きな被害が発生した。

2 豪雨・洪水・土砂災害等

《コロンビア》

1月12日、西部のキブド市とメデジン市（同国の3大都市）を結ぶ山岳地帯を通る交通量の多い道路で土砂崩れが発生し、少なくとも死者は34人、負傷者は数十人となった。

《中国》

1月22日、雲南省北東部鎮雄県で地滑りが山

（注）各災害の被害状況（死者数等）については、途中経過的なものも多く含まれており、最終確定結果ではないことに留意願いたい。各災害は、基本的には自然災害発生ごとの時系列で整理しているが、各国において時系列が比較的近接する類似の災害についてはまとめて記載しているものもある。また本稿は、海外の自然災害を対象としているが、能登半島地震については例外的に掲載した。

間部にある村を直撃し、少なくとも死者は44人となった。

《フィリピン》

2月6日、南部ミンダナオ島ダバオ・デ・オロ州の金採掘の山村で大雨により土砂崩れが発生し、鉱山の作業員を乗せたバスや多数の建物が巻き込まれ、少なくとも死者は98人のほか、行方不明者も10人近く発生した。

《インドネシア》

3月7日から3月13日にかけて、スマトラ島西スマトラ州の大雨と洪水・土砂崩れにより少なくとも死者は26人となった。

4月13日、南スラウェシ州タナ・トラジャ県で地滑りが発生し、死者は20人となった。

《パキスタン》

3月6日、カイバル・パフトUNKワ州スワート地区で大雨・降雪による土砂崩れが発生し、少なくとも死者40人以上となった。

4月12日から28日までの大雨による洪水等で、カイバル・パフトUNKワ州、パンジャブ州、バロチスタン州等で少なくとも死者は117人となった。

《タンザニア》

4月初旬から ドドマ、ダルエスサラームの市街地をはじめ各地で大雨が続き、洪水・鉄砲水・地滑りにより、少なくとも死者は155人となった。

《オマーン、イラン等》

4月中旬、ペルシャ湾沿岸諸国（オマーン、イラン、アラブ首長国連邦、イエメン）が大雨に見舞われ、オマーン（死者20人）、イラン（死者18人）等で少なくとも死者46人となった。

《中国》

4月中旬以降、広東省では、長引く大雨により死者4人、行方不明者10人となったほか、5月1日には、同省梅州市で長雨による高速道路路面の崩落により、少なくとも48人の死者が発生した。

《ケニア》

3月下旬以降4月から5月にかけて国土のほぼ全域で次々と豪雨・洪水が発生し、少なくとも死者は260人以上のほか、行方不明者は70人以上となった。この間、4月29日に西部のマイマヒウでダムが決壊し、少なくとも45人が死亡した。

《アフガニスタン》

4月中旬を中心に、全土にわたる広範な4月の大雨と洪水・鉄砲水により、少なくとも死者は100人以上となった。

5月10日から11日にかけて、北東部の3州（バグラーン・バダフシャン・タハールの各州）で豪雨と洪水・鉄砲水が発生し、少なくとも死者は500人以上となった。

5月17日から18日にかけて、中部ゴール州・ファリヤーブ州で発生した大雨と洪水・鉄砲水により、少なくとも死者は130人以上となったほか、行方不明者は数百人ともいわれている。

《ブラジル》

4月29日以降5月上旬にかけて、最南端のリオグランデ・ド・スル州では、470を超える自治体で豪雨による洪水や地滑り、土砂崩れ等が発生し、少なくとも死者は183人となる同州過去最大、ブラジル有数の自然災害となった。

《インドネシア》

5月11日から12日にかけて、西スマトラ地域のマラピ山の上流地域での豪雨によって火山泥流を含む鉄砲水や洪水が下流地域（アガム地区、タナ・データル地区等）を襲い、少なくとも死者は67人、行方不明者は20人となった。

《パプア・ニューギニア》

5月24日、首都ポートモレスビーの北西約600kmにある山岳地帯エンガ州で大規模な地滑りが発生し、多数の家屋が生き埋めになる甚大な被害が発生した。遺体の捜索・回収は困難を極め、正確な死者数は把握できていないが、政府やメディア報道によると、少なくとも死者は670人以上となっている（同国の国家災害センター等によると、この地滑りで2,000人以上が生き埋めになったと報道されている（5月27日時点））。

《インド》

5月及び6月のモンスーン季の大雨と河川の氾濫・洪水は、アッサム州を中心に各地に深刻な被害をもたらし、少なくとも100人以上の死者となった。

《コートジボアール》

6月13日以降、沿岸部の同国最大都市アビジャンで大雨が続き、洪水・土砂崩れにより少な

くとも死者は 24 人となった。

《中国》

6 月半ば以降、南部の広東省、福建省などで 1 週間以上にわたって記録的な大雨が続き、洪水・土砂崩れなどで少なくとも死者は 55 人以上となった。このうち、広東省梅州市平遠県では 6 月 21 日までに 38 人が死亡している。

《インドネシア》

7 月 6 日、スラウェシ島ゴロンタロ州の無許可の金鉱山で大雨による土砂崩れで発生し、採掘をしていた村人の少なくとも 12 人が死亡し、50 人近くが行方不明になった。

《チャド》

7 月以降の数週間の大雨・洪水により、500 人を超える死者と約 190 万人が家を失うという、同国で半世紀以上経験のない甚大な被害となった。

《インド》

7 月 11 日から 12 日にかけての洪水により、ウッタル・プラデーシュ州の多数の村々が被災し死者は少なくとも 54 人となったほか、ヒマール・プラデーシュ州では、6 月 27 日から 8 月 16 日までの間に洪水と土砂崩れで少なくとも死者は 31 人、30 人を超える行方不明者となった。

7 月の大雨は南部ケララ州にも襲来し、ワヤナード県では複数の土砂崩れが発生し、7 月 30 日に発生した土砂崩れでは、少なくとも死者は 420 人、行方不明者は 110 人以上、400 人近くの負傷者が発生した。

8 月 19 日からのトリプラ州の洪水により、少なくとも死者は 31 人となった。

《アフガニスタン》

7 月 15 日から 16 日にかけての大雨・洪水で、ナンガルハール州を中心に少なくとも死者は 60 人となった。

《イエメン》

7 月末から 8 月中旬にかけて大雨による洪水によって複数の州で広範囲にわたって甚大な被害が発生し、アル・フダイダ県等で少なくとも死者 61 人となった。

《バングラデシュ》

8 月 21 日、大雨とインド・トリプラ州のダムから放出された水が鉄砲水になって重なり、下流

域の北東部・東南部の 11 県で深刻な洪水被害が発生し、70 人を超える死者となった。

《パキスタン》

8 月には、洪水等によってパンジャブ州、カイバル・パフトUNKワ州やシンド州等で少なくとも死者は 245 人となった。

《タイ》

8 月中旬以降、各地で大雨による土砂崩れなどの被害が発生し、9 月上旬までに少なくとも 33 人が死亡しており、プーケット島では地滑りにより死者 13 人が発生している。

《スーダン》

8 月 24 日、長引く大雨によりポートスーダン北部にあるアルバートダムが決壊し、20 以上の集落が飲み込まれ、多数の死者・行方不明者を出した。ダムの不適切なメンテナンスも指摘されている。各地の洪水等による死者は、当局の 8 月末の発表では 148 人とされている。

《インド》

8 月 31 日から 9 月初旬、アーンドラ・プラデーシュ州沿岸地方の NTR 地区で大雨による洪水が発生し、死者は 35 人となった。

9 月下旬にビハール州で降り続いた大雨により、9 月 26 日に河川の氾濫等が発生し、各地で行われていた古代ヒンズー教のお祭りの儀式的参加者が巻き込まれ、少なくとも死者は 46 人（その多くは子供）となった。

《ポーランド、ルーマニア、オーストリア等》

9 月中旬、ストーム「ボリス」を伴う記録的な大雨により中央ヨーロッパを中心に広範囲に深刻な洪水が発生し、ポーランド、ルーマニア、オーストリア、チェコ等各地で甚大な被害となり、これらの国々で死者 27 人となった。

《ネパール》

9 月 26 日以降、各地で洪水や土砂崩れが広範囲に発生し甚大な被害となり、10 月中旬の時点で死者は 250 人、行方不明者は 18 人、負傷者は 178 人となった。死者のうち 200 人以上が土砂崩れによるものだった。

《ボスニア・ヘルツェゴビナ》

10 月 3 日から 4 日にかけて記録的な豪雨に見舞われ、南部ヘルツェゴビナ・ネレトヴァ県の採

石場の土砂崩れとみられる 18 人を含め、少なくとも 26 人の死者となった。

《スペイン》

10 月 29 日、東部バレンシア自治州などで発生した記録的な集中豪雨と洪水により、バレンシア市等でスペイン近代史上最悪の自然災害のひとつともいわれる壊滅的な被害が発生した。この災害による死者は少なくとも 232 人となり、17 人の外国人も含まれていた。避難警報の遅れ等による人的被害拡大に対する当局の責任も指摘されている。

《タイ》

11 月下旬、タイ南部とマレーシア北部で数十年ぶりの大規模な洪水が発生し、タイでは少なくとも 50 人を超える死者となった。

3 台風・ハリケーン・サイクロン等

《マダガスカル》

3 月 26 日から 29 日にかけて、サイクロン「ガマネ」が北部・北東部に襲来し、死者は 18 人のほか行方不明者は 4 人となった。

《インド、バングラデシュ》

5 月 26 日、東部の西ベンガル州とバングラデシュの国境地帯にサイクロン「レマル」が上陸し、豪雨・強風・高潮・洪水が発生し、少なくとも死者は、インドで 65 人、バングラデシュで 19 人となった。

《米国等》

5 月 25 日から 27 日にかけて、中部各州を竜巻・暴風雨が襲い、ケンタッキー州、テキサス州、アーカンソー州及びオクラホマ州での死者は 22 人となった。

6 月下旬から 7 月上旬にかけて、ハリケーン「ベリル」がカリブ海、ユカタン半島、米国のメキシコ湾岸地域に甚大な被害をもたらし、また「ベリル」の影響を受けテキサス州で 15 個以上の竜巻が発生するなど、テキサス州、ルイジアナ州、アーカンソー州、ミシシッピ州、インディアナ州、ケンタッキー州等各地で深刻な竜巻被害・風水害に見舞われた。ヒューストン地域の 42 人など米国内で 48 人の死者のほか、他の国々も含め 70 人を超える死者となった。

《台湾、中国、フィリピン》

7 月下旬に、台風「ガエミ」が通過した台湾や中国東部及びこの台風の影響とモンスーン豪雨等の重なったフィリピンでは、暴風雨・洪水・土砂崩れ等により、少なくとも死者は、台湾で 10 人、中国で 94 人、フィリピンで 48 人となった。

《インド、パキスタン》

8 月 25 日以降 9 月初めにかけて、インド西部のグジャラート州等やパキスタン南部のシンド州等でサイクロン「アスナ」とその影響による大雨で広範囲にわたって洪水等が発生し、少なくとも死者は、インドで 49 人、パキスタンで 24 人と

スペイン・バレンシア自治州での集中豪雨・洪水被害（写真：AFP／アフロ）



なった。

《ベトナム、ミャンマー、タイ、フィリピン、中国》

スーパー台風「ヤギ」は、9月1日の熱帯低気圧の発生から発達して9月5日には暴風のピークに達し、9月9日までに東南アジア・中国南部を通過しながら猛威をふるい、各国の関係地域に洪水・土砂崩れ等による甚大な人的・物的被害をもたらした。「ヤギ」は、この数十年で東南アジアを襲った最強のスーパー台風4つのうちのひとつに数えられる。

このスーパー台風が通過したフィリピン・ルソン島、中国・海南島、ベトナムや台風の影響による豪雨降水帯が発生したミャンマー及びタイでは、洪水、土砂崩れ等による甚大な被害が各所で発生した。人的被害（死者数）は、少なくとも、ミャンマーで430人以上、ベトナムで320人以上、タイで50人以上、フィリピンで20人以上となったほか、家屋や道路・河川等の損壊による損害額も、中国で約100億ドル、ベトナムで約34億ドルなど、記録的な被害額が推定されている。

《バングラデシュ、インド》

9月13日から18日まで活動を活性化させた熱帯低気圧「BOB05」は、バングラデシュ及び国境を接するインドの西ベンガル州に洪水による大きな被害をもたらした、少なくとも両国で50人以上の死者となった。

《フィリピン》

10月19日以降に低気圧から発達した熱帯ス torm「トラミ」（フィリピン名・クリスティン）は、10月下旬までフィリピン、ベトナム、タイ、中国を通過しながら各地に被害をもたらしたが、フィリピンのルソン島（カラバルソン地方、ビコール地方等）において特に大きな被害となり、少なくとも死者は160人以上となった。

《米国》

9月26日にフロリダに上陸したハリケーン「ヘレン」は、北上するにつれて広範囲にわたって壊滅的な被害をもたらした。暴風雨・洪水等による人的被害（死者数）は、100人を越えたノースカロライナ州をはじめサウスカロライナ州、フロリダ州、ジョージア州、テネシー州等で、少

なくとも249人に上った（これは、2005年に1,800人を超える死者を出したハリケーン「カトリーナ」に次いで米国で過去50年間で2番目の死者数とされる）。

10月7日に2024年最強のカテゴリー5の勢力となったハリケーン「ミルトン」は、8日から9日にかけてフロリダ州で少なくとも46個の竜巻を発生させるなどにより甚大な被害をもたらした、同州で32人の死者となった。

《インドネシア》

11月18日前後から勢力を強めはじめたサイクロン「ロビン」は、11月下旬にかけてスマトラ島とジャワ島に大雨をもたらした、洪水・土砂崩れ等によって北スマトラ州の30人をはじめ、中部ジャワ州、東ジャワ州や西スマトラ州等で、少なくとも死者は41人となった。

《スリランカ、インド》

11月25日に発生し、勢力を拡大して29日に「フェンガル」と命名されたサイクロンは、その後スリランカに接近した後インド南部に上陸し、洪水等によって甚大な被害をもたらした、少なくとも死者は、スリランカで17人、インドで20人となった。

《モザンビーク、マヨット、マラウイ等》

12月7日から8日にかけて、インド洋南東部で発生したサイクロン「チド」は、その後勢力を強め西方に進行し、12月12日にはマダガスカル北部を通過し、その後グロリオソ諸島付近を進み、15日にモザンビークに上陸した。「チド」は各地に甚大な被害をもたらした、少なくとも死者は172人（モザンビークで120人、マヨットで39人、マラウイで13人）、負傷者は6,500人以上となった。

4 火山噴火

《インドネシア》

11月3日午後11時57分、東部小スンダ列島フローレス島にある双子火山レウオトビ山の中のラキラキ山（1,584 m）が噴火し火砕流が住宅などを襲い、少なくとも死者10人となった。この火山はその後も活発な活動を続けている。